

## 一般演題【臨床例】 高気圧酸素治療を契機にCOVID-19後遺症 が軽快した1例

三浦邦久<sup>1)</sup> 石原 哲<sup>1)</sup> 秋富慎司<sup>1)</sup> 深谷武徳<sup>2)</sup>  
渡邊大祐<sup>3)</sup>

1)医療法人伯鳳会東京曳舟病院救急科  
2)医療法人伯鳳会東京曳舟病院診療技術部ME課  
3)社会医療法人社団順江会江東病院泌尿器科

### 【はじめに】

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 罹患後、殆どが時間経過と共に症状が改善するが、いまだ発症機序などに不明な点が多く、一部の者が後遺症を発症する。

世界保健機関は、COVID-19後遺症について「COVID-19に罹患した人にみられ少なくとも2カ月以上持続した他の疾患による症状として説明がつかないもの。通常は発症から3カ月経った時点にみられる。」と定義している。COVID-19感染後の後遺症について、厚生労働省研究班は、成人感染者の11.7～23.4%に症状がみられ、小児より割合が2～4倍高かったと公表している。また、ワクチン接種をした人は、成人・小児ともに、未接種者より後遺症の発症率が低かった。COVID-19後遺症の症状は、疲労感や倦怠感、関節痛、息切れ、集中力低下、嗅覚や味覚の障害などが知られているが、発症機序が明らかになっていないことが多い。国内外で定義は確定していないのが現状で、厚労省は「罹患後症状(いわゆる後遺症)」と位置づけている。

今回、COVID-19後遺症(ブレイン・フォグ、全身倦怠感)に高気圧酸素治療が著効した1例を報告する。

### 【症例】

58歳男性

### 【既往歴】

高血圧、気管支喘息、頸椎症性脊髄症(58歳)

### 【症状経過】

COVID-19発症3か月後も全身倦怠感、ブレイン・フォグに苦しんでいた患者に週1-2回Bスポット療法(塩化亜鉛を綿棒で上咽頭に擦り込む治療法)を行っ

たが症状軽快しない為、患者の希望もあり高気圧酸素治療(HBOT)を11回施行した。HBOT5回目にブレイン・フォグを認めなくなり、HBOT終了時には全身倦怠感は軽快した。

### 【考察】

COVID-19後遺症の治療は、現在、漢方薬などで対処療法をしているが、まだ治療法は確立しない。

特にブレイン・フォグや全身倦怠感は未だ治療法は確立していないが、今回HBOT後ブレイン・フォグを消失し全身倦怠感も軽快した。

全身倦怠感にはBスポット療法が70%有効と本邦で報告されているが、本症例ではBスポットのみで効果がなかったため、本人の希望もありHBOT施行した。

全身倦怠感、集中力低下にはHBOTが有効であると海外<sup>1),2)</sup>、本邦(第56回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 第18回日本臨床高気圧酸素・潜水医学会学術集会で演者が発表)を報告している。

### 【結語】

COVID-19後遺症のブレイン・フォグ、全身倦怠感に対して患者自身の意向があればHBOTを行い、COVID-19後遺症が軽快するか経過観察しても良いと思える症例を経験した。

### 参考文献

- 1) Hyperbaric oxygen therapy improves neurocognitive functions and symptoms of post-COVID condition: randomized controlled trial <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/35821512> accessed July 12, 2022
- 2) Tim Robbins et al, Hyperbaric oxygen therapy for the treatment of long COVID: early evaluation of a highly promising intervention. Clin Med (Lond). 2021 Nov;21(6):e629-e632. doi: 10.7861/clinmed.2021-0462